

自己評価結果公表シート（令和4年度）

はのうら幼稚園

1、本園の教育目標

“豊かな環境から育まれる豊かな心、一人ひとりの創造性を育てる”を教育の柱とし、幼児期にふさわしい環境を与え、幼い子どもたちが身近な体験を通して生きる力の芽を育み、人や自然を大切に作る心、を育成する。

教育目標

- ・生活習慣の基本を身につける（言葉、挨拶、食事、排泄、着脱衣）
- ・物事に対する興味や関心を育て、意欲的、創造的に取り組む力を養う
- ・自分を表現する喜びを感じ、相手の気持ちを理解する心を育てる。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

新型コロナ蔓延の中、子どもの育ちと経験を損なうことなく安全な園生活が送れるよう保育環境、衛生管理、行事等の見直しなど今までとは違う園での集団生活の構築に向けて教職員一丸となり見直しを図る。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保護者の方針理解の促進	・新型コロナウイルス感染症の対応について、参観の中止や行事の人数制限、実施などの対応を行い、感染者発生時の対応についても、行政判断にも変化のある中、園の判断のもとすすめてきたが、PTA役員様との連携のもと、ご理解、ご協力いただき混乱なくすすめられた。
幼児の主体性を育む保育環境のあり方	・指導計画を見直し訂正し、子どもの実態に即した内容になるように努めている。また園内研修を通して、各クラスの指導計画について実態と照らし合わせて、反省と改善を加えている。
保育の質の向上につながる職員研修の充実	・コロナ禍の中オンライン研修が主であるが、キャリアアップ研修をメインに各自年間12時間の履修を行えた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B 達成されている	心身ともに安心・安全を第一に園生活ができるように努めた。保育内容や進め方を柔軟に考え、環境設定を工夫し保育を行った。突発的な様々な対応が必要なことが多かったが、職員の連携を密にとることで乗り切ることができた。また、一人ひとりの子どもの思いに寄り添い共感しながら言葉で表現することや、相手とかかわる方法を援助する必要がある多く、丁寧なかかわりが重要である。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
安全管理について	スクールバスの園児置き去り事案等を踏まえ、今一度園児の登降園管理および職員間の共有を再確認する。 バスの安全装置の設置を速やかに行う。
教育環境整備について	防犯体制をより進めるため外階段2階部分の門扉を簡易タイプのものから自動施開錠・インターホンの設置を進める。

6、学校関係者の評価

評価項目

- ・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・ 学校関係者評価アンケートの考察

意見

出席評議員からは概ね良好な運営をされ、また学校評価にも積極的に取り組まれているという意見をいただいた。

7、財務状況

公認会計士監査により、適性に運営されていると認められている。